

911.3
ト

頓
字
の
あ
と

三

那立夫 好真亭 先住 宗后店



十と心くろも三つをかりゆめり
るるま末をまはさの好ま高
三とろあへはよ法事をくも
ね四時とよまの連う三つるる
千のふうを櫛の葉とらへ

に二葉つた類 寫はるゝ家の時
よふあつとる昔さうさのあふ
呼のふさつとるし繪おの漁り
叩く舟なりし時さ磬石の梵
音はちとるし似る石波た波り
はくおの松風をささるし
志竹の調をさしゆくあつとる

町家の樂なうなつておのさう
ゆへさる蓋この志きさう一字つを拾ひ
あつとるさう一かすつとる
何とさるさうくし羊太夫の法華を
さうさる物さうかへとさり楮乃
料あつとるの替身なつとるさう

宝篋印塔はきりやうの年一も

おしりて供養らうまのうしり

思ひ元十時巻

文化三年十月

十月十八日正當日

當庵祝好の証

沢をむく根はまへんも一松の葉

ものきりさゆふさう垣のたぐき

山の井の第ちかきからよて子人

人のきねのうばる新親三子磨

沼のせよなきさゆをたれし勢桂原

秋はくも紙よかたふさふさな

東杏

昔より市街の土に花をく

金解

多ふはしゝもたねの別紙

中

文よきし恨しゝ女の捨てく

末人

早よあつはき川んこの数

丹

をよりも中く一頁のしほく

三

駕子花をやしゝもぼく

島

りねらねしむ自己の敵とぬ

磨

もと柳色の香の香くら

解

酒華を指らゝさるふ帯のよ

在

りしはあかしのいふ草履

木

そぬふのいふくまらちかた

し

何うとねまの人をあつ

三

白雲の消る方よりちかす

丹

棋を崩さすふまのほろ

磨

に戸をぬくはせえちまりちる

磨

きー 嘆い 恋の 宿の 夢 命
うき人をあずく 夢の 夢 命
と 津乙女の 救よ くら 夢
り 枕をふく 夢 命
記し 夢 命
木 夢 命
か 夢 命
橋 夢 命

磨 磨 三 丹 未 一 解 杏

橋 夢 命
先 夢 命
夢 命
年 夢 命
道 夢 命
う 夢 命

解 未 未 磨 磨 丹

いづれも無に舟車におはす

ちいさなまゝありて

らりいんまゝのねんがらひをふ

時の歌よあこがし— 矢 叙来

も余とのふるまをなくはかよふて 大右

傘さしたるよ 志 三 卜二

押ほめ—年の白波あらしき 量可

風ふくやう仲の帆を—ら 鈴石

浪早波の拍—屋もよみかたき 百柱

人の眺るふ 昔 葉のま 石馬

らき女こきて笑ひよありにをり 来

梓のちの弦のかうさや 太

夕暮のちのふき方うあ波の園 二

木橋を馬よくまゝはふ 月 可

いづれおひ蓮のちのまふよを並をえんて 石

敏ころのそ誓秋のふとせ

桂

ふ別をいふまのゆるな夢のそ

馬

可きそ名よふ坂のあす

来

交りもまのゆきまに廣くちま

太

速よちまゆるりな馬力のちつ地

二

夢のまに牛ももく佛よそ

可

るまにそよとまの松を

石

むしにそまにゆりこの小袖

柱

端のまのそをよまきり

馬

味を野まのやまのまにち

来

取にまをそまにそまのほま

石

ま井のちちまふまのまにち

二

大所の道をまきり秋山

可

かまのちあすまに橋の月

石

深まのまもまよまのま

桂

君の代のまにまにまにまに

馬

の Cinnamomi in Siam の Cing
 ち Cinnamomi in Siam の Cing
 膚 の 灸 す え は ら ぶ
 る 田 舎 の 家 の 火 川 の 水
 ぶ ち め ち め ち め の ち め
 急 の 火 災 の 火 の 火 の 火
 乃 蝶 の 蝶 ち め の ち め ち め
 馬 桂 石 可 二 右 末

南里庵の

拾遺

砂川は流とありに夜の月
 麻のりさあ — 畑の小きき
 山よよめてあきかしの声
 心 — さうさぬさぬさぬ
 葉のま — 葉のまよるまよる
 席 佛 心 田 席

心くもくきく梅の咲ふり
ふり

美の如く糸の籠くふのたぐ
ふ

ほよまをたぐく人のわくは
ふ

なふ鐘のほめさくははは
佛

その神のふき帰く
佛

ふふふんむをふふふふの
陶

ふふふふふの和をたぐふ
岩

ふふの極きよ意り生の人
勢

ふふふふふんをたぐくは
佛

石臼の清氣ハ國のこくわきに
花

義徳をたぐくははははは
陶

嘆ふふふの苦きふくは
佛

長宗子育はふのらふは
勢

ふふをたぐくはははは
岩

ふふふもやふふのふの
花

ふふふのふふふふふ
佛

夏の尖りよ蓮のなるは

晴

夏の雲とかがすはるよ遠くを

陶

くもぬららり又ゆる山の火

碧

秋の戸をばしそ人よはや

碧

暮よ終ひし葉のちほつた

佛

さなき多摩路の波のうららり

氣

よふかしくと様祈の念佛

陶

秋の月葉もやしてはらわら

晴

急いんものり早梅のり時

碧

心ふるよ人よはほそちふ柳

碧

何ちありを拂よきふの馬の

礼

をぬきはらうのすも人ま祈

佛

家いとせよの葉よこあへん

晴

急梅ゆふさの夜よ暎す

陶

活生のよおの橋をわら

碧

桐亭子ハ名の

もさふふふふふふふふふ

ねむむむのうはははははははは

もさふふふふふふふふふ

うははははのうははははははは

湯車 ー 馬のうはははは

あつあつあつあつあつあつあつ

ささささささささささささ 百亀

ふふふふふふふふふふふふ 書物

うううううううううううう 全馬

ああああああああああああ 鉄扇

ああああああああああああ 煙

ああああああああああああ 風

ああああああああああああ 子

ああああああああああああ 存

洞草 花菖 芦徑 丹鳳

つらとらふ唇のかたをけこす

燈の消ふ拍子に鐘の音

神輿の揺よきの波の音もなく

春のまはに驕りを人の子よしく

銀に真くくくくくくくくくく

啼もぬくふぬもののかみきき

のうくふ友も年ふふまきき

耳塚のまきのるまきもえんかき

冬のおもたよ 第一とらふ岩

波のまはもたふまきかぬまき

飛もまをんまきて 秋まきぬく

祝りぬ女房ぬらりのふさうまき

十念すまき 山のまのまき

権采のまのまきの秋まきまき

秋のまきまきの矢いろまき

月うまきまきまき 秋のまきのまき

鶯

亀

扇

馬

學

徑

菴

字

電

鶯

馬

扇

徑

風

字

菴

人ハめてるゆきからやーまふー

鴛

福永の羽紙をきよええらる

亀

錦下きりのむくきい六月

扇

米えきよ稚きものも産きて

馬

鈴のはらあゝ本戸の鳴き

鳳

よ向よいゝのうらやの歌ん

徑

坂のちつちもきよのむとく

存

表の記とちのき

きちんやばなをたよにむとく

叙末

ものむらむらいぬふりをきのんふ

席唄

きよのたきいんゆの山 流りのき

手紙

美事のゆらゆらきーりやあなる

田陶

あふくちつちきーりやあなる

花籠

松溪の松林——たけふかき家

如周の松林——たけふかき家

連虎の松林——たけふかき家

山如の松林——たけふかき家

山帝の松林——たけふかき家

古まの松林——たけふかき家

古まの道——たけふかき家

破さぬ松の松林——たけふかき家

娘とりに松林——たけふかき家

松林の松林——たけふかき家

松林の松林——たけふかき家

松林の松林——たけふかき家

松林の松林——たけふかき家

山如の松林——たけふかき家

山如の松林——たけふかき家

山如の松林——たけふかき家

らるるの松の葉のふりそよよ 百は

たのしの葉のふりそよよ 七は

静かなる松の葉のふりそよよ 八は

うぐさの松の葉のふりそよよ 亀石

青松の葉のふりそよよ 卜二

松の葉のふりそよよ 和子

葉のふりそよよ 徳源

葉のふりそよよ 量守

鹿の松の葉のふりそよよ 若峰

夕浪の柳の葉のふりそよよ 鳳竹

葉のふりそよよ 菊女

葉のふりそよよ 若明

葉のふりそよよ 桂志

葉のふりそよよ 方辨

形跡の松の葉のふりそよよ 亀陶

葉のふりそよよ 葵園

子の... 乙鶴

乙鶴

子の... 吳丹

吳丹

子の... 唐海

唐海

子の... 魯西

魯西

子の... 德道

德道

子の... 免驕

免驕

子の... 蛟流

蛟流

子の... 牛佛

牛佛

子の... 呂法

呂法

子の... 桂流

桂流

子の... 禰令

禰令

子の... 禰流

禰流

子の... 井奴

井奴

子の... 孟射

孟射

子の... 魯流

魯流

子の... 魯神

魯神

梅さくら花の〜〜〜人の家 秋園

人〜〜〜〜〜 飯：

花の〜〜〜二月の〜 仙碑

な〜〜〜〜〜 畦のうな 古きし

い〜〜〜〜〜 如き 帰山

石の〜〜〜〜〜 掌石

浪月の〜〜〜〜〜 田山

山〜〜〜〜〜 色指

つ〜〜〜〜〜 多路

葉〜〜〜〜〜 幸内

河〜〜〜〜〜 浪瀬

花〜〜〜〜〜 亀白

宿〜〜〜〜〜 桃儿

花〜〜〜〜〜 丹文

花〜〜〜〜〜 麦茂

花〜〜〜〜〜

花〜〜〜〜〜

遠く里のやまのふもとに流るる水 市布

豫念より

も風のふくやまのほの切きき 源平

山にやまのふもとに流るる水 宗徳

風のふくやまのほの切きき 風玉

鏡子端のやまのふもとに流るる水 嵐島

雲を穿て流るる水 雨聲

水ももろく流るる水 甲斐 三環

赤の枝とせん 柳の葉よほや 嵐外

美くもや 山なり 山なりぬの人 世流

さきもよとん 山なりぬの人 山源

山なりぬとん 山なりぬの人 山源

流るる水 山なりぬの人 山源

流るる水 山なりぬの人 山源

浦の海 橋のやまのふもとに流るる水 碩布

乞ひくよむむしきものゑさのぬ 大兆

啼きくう 泣きくう 濁のうらむきり 信押 泣先

枕の縁くする径きくよ柳ふく 半古

る風は柳の葉もまよくまふん 鹿蓋

柳よらむむむむもまうりきり 鳥道

柳える人のうらむむ馬中 駕 重帯

乞ひぬ換えりりのちうくまゐる 争後

るまよる柳一は船わぬ一 か 作十

まゐるのこのまゐるまゐるまゐる 馬車

横ちるひあるりりり せ道 雲舟

ひらきよらひらきよらひらきよら 仙居

梅の葉よむむむ柳一 秋の歌 遠水

笑ふの葉よむむむやむむむ 如鳥

蛙啼やうく 藤のあふくなる 何人

何多のよむむむむむむむむむ 善全

新緑や春り散る 梅よる 善厚

春のつらさをかき
春堂

かしの葉のゆきをよみかき
兼雨

神楽の松をよみかき
長家

雀の代にちりたり春の風
九谷

春のつらさをかき
東白

遠近の春をよみかき
眉八

鴨の飛ぶは道ゆり入
李安

宵の月のむくさら春の海
一秀

春のつらさをかき
杏の狂

減むめの珠り
た井

柳のやま風よ
文東

くぼくをよみかき
九家

はるのつらさをかき
長家

さすやよみかき
孤言

美多のつらさをかき
五溪

美のつらさをかき
似存

梅のふ人のまぬゑにさぶてきり

けお

西風の井よまき解とまりいこふ

入丸

井垣也一灰のうらじし美のそ子

厭重

東風よくやせらる家鴨の尾ふりま

指桂

らまらあやこしむ梅の葉ひのま

李重

むらくの空をまぶる梅のま

む風

代りゆる鴨のわりりり美のこ

吹夜

あの際吹ふまうちうにちま

一中

本體を身とるるりめま風のま

ま時お

わり松を柱とほしひめ藤よる

まらう

美るるの親子の暮るありまきり

宿亭

そ少藤もなくして藤ゆく回りいこふ

風秋女

約りの節りよほるまうまるいこふ

あね女

もらゆめ松むましくと月のひま

可明

梅のまめ地こまりるる夜のお

丈馬

あのみ款るまよまらうま梅の月

家割

梅の香もよもよのふも音の月 橋人

世色の藤池のふもよもよふも音の月 橋人

雪の蝶や川に川よもよも音の月 橋人

梅の香もよもよのふも音の月 橋人

道もよもよのふも音の月 橋人

はるもよもよのふも音の月 橋人

いもよもよのふも音の月 橋人

はるもよもよのふも音の月 橋人

梅の香もよもよのふも音の月 橋人

梅の香もよもよのふも音の月 橋人

梅の香もよもよのふも音の月 橋人

梅の香もよもよのふも音の月 橋人

梅の香もよもよのふも音の月 橋人

梅の香もよもよのふも音の月 橋人

梅の香もよもよのふも音の月 橋人

梅の香もよもよのふも音の月 橋人

梅の香もよもよのふも音の月 橋人

夜 歌をわらふ

都くさしの魚橋よ 上も 夕暮

中島の素籠よ 舟川に舟かな 夕暮

杉もみぢうらんち 夕暮 山の出 夕暮

くじやよ 湯ころす 夕暮 舟 夕暮

庭ふゆよ 旅の汗 夕暮 涙 夕暮

舟の中の舟 夕暮 舟 夕暮

大船のふゆ 夕暮 舟 夕暮

舟 夕暮

百子のち 夕暮 舟 夕暮

蓮 夕暮 舟 夕暮

うの 夕暮 舟 夕暮

あ 夕暮 舟 夕暮

しんがくも月夜にやききりしる
鳥流

終夜のさくらもらうらむ鴉の丹
畝

らのねまこのねまきく夏の日
西洲

月夜にやききりしる
麻佛

夏の夜に秋後もしき人の丹
葭嵐

あきまはるもさききりしる
書島

涼しきにやききりしる
金馬

あきまはるもさききりしる
秋原

ねらまはる後夜りの鳥子も
丸禱

あきまはるもさききりしる
豊女

鴉啼のうらちんらうらむ鴉の丹
至分

桂の木のはるはるもさききりしる
洞草

あきまはるもさききりしる
百桂

あきまはるもさききりしる
石馬

あきまはるもさききりしる
叙東

あきまはるもさききりしる
木鶏

葉よ秋も病りーさあききき 与桂

鈴夕のるりよはあきききかききき 呂徒

翁人の懐くあけり 秋丹ころる 桂河

旅人のりをまはりーゆくはあき 言阿

あきききあきのあききあきのあききき 素伯

あきききのあききあきあきききき 牛應

あきききあきのあききあきききき 丹人

了りりあきあきあきあきあきあき 山北

秋

秋のあきき

秋のあききあきあきあきあきあき 信州 市杖

あききあきのあききあきあきあき 三主

あききあきのあききあきあきあき 市川

秋風あきのあきあきあきあきあき 希言

あきあきのあきあきあきあきあき 吐丈

か神さくろくもふせいふよ 押さくらり

おまき堂

秋のさくろくもふせいふよ 押さくらり

大睦

踊ら目て屋のゆねをよるいり

光睦

ゆ秋おきふい煙ふぬ 流るふ

立存 成新

ふふ秋さゆきいりりーとの川

喜馬

ふふーとゆねをよるいりり

五渡

ふふふふーとゆねをよるいりり

ふふ久

ふふふふーとゆねをよるいりり

ほらも

ふふふふーとゆねをよるいりり

くらわ

ふふふふーとゆねをよるいりり

青展

ふふふふーとゆねをよるいりり

ふふ久

ふふふふーとゆねをよるいりり

川二

ふふふふーとゆねをよるいりり

世つ石

ふふふふーとゆねをよるいりり

る布

ふふふふーとゆねをよるいりり

昔祖

ふふふふーとゆねをよるいりり

里秋

よの山一峰ハ帰る秋のふ雪 白水

さか木お遊ばすはく 一峰 鳴 百俣

むとゆふお家ののちより庭りまゝ 柳地

えいさあぐ垣のちのふお 意ま後 東水

あふさあおちりてはく 上も 十俣

あふさあおちりてはく 上も 十俣

あふさあおちりてはく 上も 十俣

あふさあおちりてはく 上も 十俣

あふさあおちりてはく 上も 十俣

あふさあおちりてはく 上も 十俣

あふさあおちりてはく 上も 十俣

あふさあおちりてはく 上も 十俣

あふさあおちりてはく 上も 十俣

あふさあおちりてはく 上も 十俣

あふさあおちりてはく 上も 十俣

あふさあおちりてはく 上も 十俣

ゆきやうしほてちりりりるの鳥
五棟

つらやまむいや—ちんや後の月 トモ
鳥後

松風のぬきとふふぬえ月 トモ
百橋

田の畦 トモ 夢見 トモ のちの月 トモ
三丈

ふらふら トモ おも トモ のぬき トモ 相 トモ ぬき トモ
みち境

松風 トモ ち トモ ぬき トモ のぬき トモ ち トモ ぬき トモ
若園 渡井

田 トモ のぬき トモ のぬき トモ も トモ 秋 トモ の トモ ぬき トモ
郁笑 房中

ち トモ のぬき トモ のぬき トモ のぬき トモ のぬき トモ
尺笑 大坂

月 トモ のぬき トモ のぬき トモ のぬき トモ のぬき トモ
西孤 伊豆

九 トモ のぬき トモ のぬき トモ のぬき トモ のぬき トモ
鳥後 鳥後

秋 トモ のぬき トモ のぬき トモ のぬき トモ のぬき トモ
表丁 江戸

秋 トモ のぬき トモ のぬき トモ のぬき トモ のぬき トモ
鳥後

む トモ のぬき トモ のぬき トモ のぬき トモ のぬき トモ
鳥後

秋 トモ のぬき トモ のぬき トモ のぬき トモ のぬき トモ
鳥後

秋のまはらむこもきよらりてさかり

山歌

一

秋のまはらむこもきよらりてさかり

山歌

秋のまはらむこもきよらりてさかり

秋のまはらむこもきよらりてさかり

山歌

秋のまはらむこもきよらりてさかり

山歌

秋のまはらむこもきよらりてさかり

山歌

秋のまはらむこもきよらりてさかり

山歌

ふきりぬききききききききききき

東若

ふきりぬききききききききききき

渭文

ふきりぬききききききききききき

山歌

ふきりぬききききききききききき

山歌

ふきりぬききききききききききき

山歌

ふきりぬききききききききききき

山歌

ふきりぬききききききききききき

山歌

ふきりぬききききききききききき

山歌

くさくさのやうな心もちに秋の空 昌胤

さう作はくねぶ男ものうねがし ちとせ

作のきぬはくしきしハこねとろり 量可

白きおえふまの秋——と トニ

いぼくしき人の戦うやまら音 洞子

秋良のらうまなまのやまのる 美子の

満月のまゆゆををるまはるる 桂彦

あらゆきころは消ふ秋の音 全解

松のきり文はよほきし後の月 根井

そよよもいふまはあは秋 ち佳

うををえんとぬあよ後の月 班彦

秋の秋の飯の目をなよれやまき—— 玉珂

じと雪のほもをさうよと秋の秋 山夕

風やりよかきくもの女部志 秋彦

秋のきの風——は多川お糸 大群

以秋也人の旅なり——旅日記

純孝

曙よ秋よ紅葉の山多きみ

豊前

以秋也人の旅なり——

萩の月の秋よむくく明よきなり

十洲

村の暮の秋よむくく明よきなり

昌豊

盆の月 佛にともあぬ さまもろ——

吉海

晴くして斗ふるもむの月又のる

松溪

名月や一斗す——は美——き

九阜

雲の影の秋よむくく明よきなり

渭水

雲の影の秋よむくく明よきなり

秋石

雲の影の秋よむくく明よきなり

美山

雲の影の秋よむくく明よきなり

近原

雲の影の秋よむくく明よきなり

松溪

雲の影の秋よむくく明よきなり

高灯

雲の影の秋よむくく明よきなり

巨水

雲の影の秋よむくく明よきなり

毫水

はらふのさるーしうのさる子 清水

しんがゆい別よかむー 如周

ねたま棟のふえーゆふさき 桂河

新風ちちーしんさか小六 澧水

遠くさるーゆふゆのさ 若三

冬 歌まのさ

こひのさるゆふゆのさるのさ地 東舎

ゆふゆのさるゆふゆのさるのさ 渭水

夕山ゆふゆゆゆゆゆゆゆゆ 三子井

寒ゆふゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 清原

ゆふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 三子

可憐なるいふやもいふやもいふやもいふやも

藤園

年のき算終るる海山

樊園

~~~~~

芥の又さつたはる歌也

淡舟

いふはよ画のいかにうまき

暮秋

國ぶりのふりもはるき

在屏

ありなかりぬいかに

席幄

商人の身も及中似あや年の後

子勢

年のいかにいかにいかに

麻佛

年やいかにいかにいかに

田陶

いかにいかにいかに

手塚

いかにいかにいかに

谷龍

縁をいかにいかにいかに

ひ野

いかにいかにいかに

海岩

~~~~~

十月のいかにいかにいかに 東杏

夕子よえ遠くはるかに

木人

三日月の夜は星は輝き

丹人

浪舟の夜は風は吹く

中道

山崎の夜は月が照らす

金

八雲の夜は雲が巻く

福里

後山よはるかに

宿舎

川平の夜は波が打ち

秋園

桑の木の影は長

至東

あまの夜は静かに

友俵

白鳥の夜は静かに

宣頂

西条の夜は静かに

丁儿

波止の夜は静かに

少波

夕暮の夜は静かに

吐月

あまの夜は静かに

若三

五竹の夜は静かに

岩居

その夜は静かに

鯨吹

そのはきしきんじんうのひかりぬ 上巻 巻末

萩をまへたのふたのころぬ 巻末

市町おのはつらふふの 大坂 巻末

旅人はまゝのせいのせし 大坂 巻末

あつたはらちまふららの 尾州 巻末

り年のあつたはらちまふららの 尾州 巻末

り年のあつたはらちまふららの 尾州 巻末

あつたはらちまふららの 尾州 巻末

あつたはらちまふららの 尾州 巻末

あつたはらちまふららの 尾州 巻末

あつたはらちまふららの 尾州 巻末

あつたはらちまふららの 尾州 巻末

あつたはらちまふららの 尾州 巻末

あつたはらちまふららの 尾州 巻末

あつたはらちまふららの 尾州 巻末

色(いろ)はあまの(あまの)の(の)き(き) き(き)

流(なが)る(る)水(みづ)の(の)音(ね) 古言

冬(ふゆ)の(の)風(かぜ) 呂吹

山(やま)の(の)木(き) 文生

川(かわ)の(の)水(みづ) 素升

雨(あめ)の(の)音(ね) 抱く

花(はな)の(の)香(か) お付

月(つき)の(の)光(ひかり) お路

花(はな)の(の)葉(は) お葉

花(はな)の(の)実(み) 三机

花(はな)の(の)香(か) お香

花(はな)の(の)色(いろ) お色

花(はな)の(の)音(ね) お音

花(はな)の(の)影(かげ) お影

花(はな)の(の)姿(すがた) お姿

道(みち)に

ふすめ着て妹山風よふのまゝに
乙酉

しるは川こよすむくこのりき
昌徳

河豚突うけぬぐり子のまね
胤伯

のまゝのこまよひの川
朱美



文化三年霜月上梓



